

29【P2】Ⅱ-417

発達期の脳で発現する C184M アイソフォームの機能解析

○高木 充弘¹, 長尾 典明¹, 栗原 正², 須賀 哲弥¹, 山田 純司¹(¹東京薬大薬,²創価大学工)

マウス *c184m* は脳の発達過程で発現する遺伝子である。最近、*c184m* 遺伝子産物の一つである C184M が、transforming growth factor (TGF)- β 情報伝達系において転写コプレッサーとして機能する Ski と結合し、TGF- β の作用を抑制的に調節すると報告された。このことから、C184M は TGF- β が示す細胞増殖抑制や分化などの調節に関与することが推測された。さらに、C184M のアイソフォームがマウス乳癌ウイルスの受容体 (MTVR) として報告されており、*c184m* 遺伝子産物が多様な役割を果たすことが示されている。しかしながら、C184M や MTVR が発達過程の脳でいかなる役割を果たしているのかについては明らかでない。C184M はロイシンの heptad repeat から構成されるロイシンジッパー (LZ) モチーフを持つが、MTVR はその部分を欠いている。そこで、発達期の脳における C184M や MTVR の役割を理解するために、C184M と MTVR をベイト (dual bait) とした酵母 two-hybrid screening 法を用いて C184M の LZ モチーフと特異的に相互作用するタンパク質の探索・同定を行っている。また、*c184m* 遺伝子産物として新たなアイソフォームの存在を見出した。Green Fluorescent Protein との融合タンパクを用いた細胞内局在性の検討から C184M と MTVR はともに細胞質のみに検出された。一方、その新規アイソフォームは核にも見出されたことから、機能的に異なることが示唆された。現在、これら 3 種の C184M アイソフォームの発現量や発現部位についての検討を行っている。